

第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成28年11月7日(月) 第5校時
学 級 大和小学校4年 21名
授業者

1 単元名 1 読んで考えたことを話し合おう 「ごんぎつね」

2 単元について

本作品は、6つの場面で構成され、1から5までは主人公「ごん」の視点で書かれ、「ごん」の心情やその変化が捉えやすく、4年生の目標である、場面の展開に沿って人物の性格や心情の変化を想像しながら読む力を育てるのにふさわしい。さらに、最後は「兵十」の視点で書かれ、「ごん」が「兵十」へのつぐないの気持ちをも深めてきても気付かれることなく引き起こされる事態、その後のわずかな交流に、「兵十」の驚き、後悔、悲しさが迫る。それぞれの児童には、「ごん」や「兵十」への思いが広がることだろう。

そこで、登場人物の心情の読み取りとともに、児童にとって一層深まった登場人物や作品への思い、疑問等について、テーマを決めて話し合うようにする。一人一人が抱いた感想・考えについて、叙述を根拠に話し合いながら、他者と比べることを通して、自分の感想・考えを見つめ直すとともに、作品に対する理解をより深められるようにしたい。さらには、各自が物語の続きを書く活動に取り組み、読み深めてきたことを一層自覚するとともに、場面を想像しながら、それを書いて表現する力を伸ばすようにしたい。

単元の最後には、新美南吉の他の作品を読んで感想交流を行い、友達の感じ方の違いを知り、物語の読みが深まったり広がったりする喜びを味わうことができるようにしたい。

物語教材の本単元で付けたい力は、場面の移り変わりに即して登場人物の行動、気持ち、関係の変化を読み取ること、互いの考えを交流して読みを深めることである。叙述をもとに想像して読む力を伸ばしたいが、学力検査、単元テストからは、その力はやや弱いことが分かった。児童にとって物語が身近な設定では、登場人物の性格、人柄等について、行動や会話文から自分なりの読みをすることができ、全体で交流をするといろいろな意見を出し合うことができた。そこで本単元では、火縄銃を実際に持つなど体験を取り入れ、「ごん」や「兵十」になって考えることで、叙述をもとに想像して読む力をつけていきたい。

児童は、読み取りにおいて、叙述を拾いたくさん書こうとする意欲がある。一方、扱う場面を広くとって叙述を選び出すようにすると、見付けた叙述について自分の考えを書けないでいたり、根拠とする叙述に自信をもてないでいたりするため、発表することにやや消極的になることがある。そこで、初発の感想交流から、みんなで話し合いたい、考えたいというところを毎時間の課題にするように計画を立て、学びの必然性をもたせた。また、児童に考えさせたい叙述を教師側から示し、話し合う内容が焦点化して話合いの意欲へつなぐことができると考えた。

3 本時の指導にあたって

(1) 言語活動の充実を図る単元指導計画の工夫

本単元の言語活動は、「物語を読んで感じたことや考えたことを話し合うこと」である。そのため、登場人物の気持ちの変化を読み取った後に、毎時間、自分の読みが深まったことをノートに書いた後、ペアで交流することに取り組む。

毎時間の積み重ねをもとに、「ごんぎつね」の全体の読み取りの後に、班ごとにテーマを設けて話し合うことや、児童自身が考える続き話の交流、新美南吉の他の作品についての感想交流ができるようにする。

(2) 根拠をもとに自分の考えをもつための指導の工夫

叙述に即して考えをもつことができるように、「ごん」と「兵十」の相手への気持ちが分かる叙述をあげて心情を想像する。注目する叙述として、「心の中の言葉」「会話」「行動」「様子(場面の様子がよく分かる、目に浮かぶようだと思う表現)」をみるようにするとともに、特に学級みんなで共通して考えたい叙述をあげて、話合いの焦点化を図るように工夫した。

(3) 考えを深め、広めるための交流の場や形態の工夫

自分の考えを発表する場では、前に発表した内容に対して「同じ、似ている、別の考え」等を用いて繋げて話すようにして、いろいろな感じ方や考え方があることに気づき、自分の考えを深められるようにする。

また兵十の後悔を考える場面では、深めの発問として、『兵十』は、「ばたりと取り落とす」程、体の力が抜けけたのは、なぜだろう。」と問いかけ、驚きの奥にある、「ごん」に対する思いに気付かせたい。

このような話し合いを通して考えが深まったり広がったりしたと感じたことを、ペアで交流するようにしたい。

4 単元指導計画 「読んで考えたことを話し合おう」 (全14時間)

【単元の目標】

- ◎文章を読んで、考えたことを話し合い、互いの考えの共通点と相違点を考えながら話し合うとともに、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。 【読 1 (オ)】
- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。 【読 1 (ウ)】
- 考えたことが文章に表れているかを見直すとともに、書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を伝え合うことができる。 【書 1 (カ)】

(1) 単元で身につけたい力 《単元の評価規準》

【関】叙述に着目して物語を読み、感じたことや考えたことを進んで話し合おうとしている。

【読】・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化を読み取っている。(1)ウ

・登場人物の性格や気持ちの変化、情景を表す文や語句に着目しながら読み、感想をまとめている。(1)エ

・物語を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。1 (オ)

【書】・書いたものを読み返し、よりよい表現になるように、推敲している。(1)オ

・書いたものを発表し合い、自分の考えと相手の考えを比べている。(1)カ

【言】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(1)イ (ア)

(2) 指導計画

次／時	ねらい	主な学習活動と学習課題	「読み取りの技」と着目させたい語句・叙述
1 2	学習の見通しをもち、物語を読んで感想をもつことができる。 「物語を読み、考えたことを話し合う」という学習に意欲をもつことができる。	・単元のめあてと本時のめあてを確認する。 物語を読み味わう力を伸ばすために、「ごんぎつね」を読んで初めの感想をもち、学習計画を立てよう。 ・物語の既習事項、この単元でつける力の確認をする。 ・初発の感想を書き、交流する。 ・各時間の学習課題をつくる。 ・新美南吉の他の作品を知る。(並行読書) 登場人物の行動や気持ちの変化をとらえ、感じたことや考えたことを話し合おう。	※A→心の中の言葉(内言) B→登場人物の会話 C→登場人物の行動 D→情景
3 4	「1」の場面について、「ちょいといたずらがしたくなった」「うわあ、ぬすつとぎつねめ。」とどなり立て「うなぎを…のせておき」といった行動や会話等の言葉に着目し、登場人物の行動や心情を考えることを通して、「ごん」がひとりぼっちで、「兵十」にいたずらをしたことから、「兵十」に「ごん」に対する嫌悪感がうまれたこと読み取ることができる。	1 本時の学習課題を確認する。 「ごん」は、なぜ「兵十」のうなぎをとったのかを読み取ろう。 2 冒頭の部分から、物語の設定や「ごん」の性格、置かれている状況などを読み取る。 3 「ごん」が「兵十」のうなぎをとった行動や気持ちを深めの発問 ◎「うなぎをあなの外の草の葉の上にのせておいた。」とあるが、「ごん」はうなぎが食べたくていたずらをしたのだろうか。 4 「ごん」にうなぎをとられた「兵十」の気持ちを考える。 5 「1」の場面を読んで考えたことを書き、ペアで交流する。	・二、三日雨がふり続いたその間(D) ・ごんは外へも出られなくて、あなの中にしゃがんで(C) ・空はからっと晴れていて、もずの音がキンキンひびいて(D) ・ちょいといたずらがしたくなった(A) ・「うわあ、ぬすつとぎつねめ。」とどなり立て(B) ・うなぎを…のせておき(C)

5	「2」の場面について、「食べさせることができなかった。…思いながら死んだんだろう。あんな…しなけりゃよかった。」といった行動や会話の言葉に着目し、登場人物の行動や心情の変化を考えることを通して、「ごん」が「兵十」の母親が亡くなったことを知り、いたづらをしたことを後悔する気持ちを読み取ることができる。	1 本時の学習課題を確認する。 「ごん」は、「兵十」の様子を見て、どんなことを考えたのかを読み取ろう。 2 「ごん」が「あんないたづらをしなけりゃよかった。」と考えが変わっていくまでの様子を読み取る。 3 「ごん」が「兵十」のうなぎをとったことを後悔する気持ちを読み取る。 深めの発問 ◎「ごん」はうなぎをとっただけなのに、なぜ後悔しているのだろう。 4 「2」の場面を読んで考えたことを書き、ペアで交流する。	・「兵十のうちのだれが死んだんだろう。」(B) ・ひがん花が、赤い布のようにさき続け…ひがん花がふみ折られて (D) ・いつもは、赤いさつまいもみたいな元気のいい顔が、今日はなんだかしておれて (D) ・「死んだのは、兵十のおっかあだ。」「…食べさせることができなかった。…思いながら死んだんだろう。あんな…しなけりゃよかった。」(A)
6	「3」の場面について、「おれと同じ、ひとりぼっち」「かけだし…投げ込んで…かけもどり」「まず一つ、いいことをした」「次の日には、くりをどっさり拾って」「かわいそうに…きずまで」「次の日も、その次の日も、…松たけも」といった行動や会話の言葉に着目し、登場人物の行動や心情の変化を考えることを通して、「ごん」が、「兵十」への共感、償いの気持ちを深めていく様子を読み取ることができる。	1 本時の学習課題を確認する。 「ごん」は、なぜ「兵十」のところに何日も物を持って行ったのかを読み取ろう。 2 「ごん」がひとりぼっちになった「兵十」を見て、共感する様子を読み取る。 3 「ごん」が「兵十」への償いを繰り返していく行動や気持ちを読み取る。 深めの発問 ◎「ごん」は「兵十」のうなぎをとっただけなのに、なぜそんなに毎日お詫びの物を持って行くのか。 4 「3」の場面を読んで考えたことを書き、ペアで交流する。	・「おれと同じ、ひとりぼっち…。」(A) ・かけだし…投げ込んで…かけもどり (C) ・まず一つ、いいことをした(A) ・次の日には、くりをどっさり拾って (C) ・「いったいだれが、…ぬすびと…ひどい目にあわされた。」(A) ・「かわいそうに…きずまで…。」(A) ・次の日も、その次の日も、…松たけも (C)
7	「4」「5」「6」の場面について、(神様にお礼)「うん」「つまらないな。」「もっていつてやるのに…引き合わないなあ。」「そのある日も…こっそり」といった行動や会話の言葉に着目し、登場人物の行動や心情の変化を考えることを通して、「ごん」が自分に対する「兵十」の思いを気にしつつ償いを続ける様子を読み取ることができる。	1 本時の学習課題を確認する。 「ごん」は、「加助」と「兵十」の話を聞いて、どう思ったのかを読み取ろう。 2 「兵十」が「加助」の「神様にお礼を」と言ったことに同意したこと、それに対する「ごん」の様子を読み取る。 3 「ごん」が「兵十」の気持ちを聞いたときの気持ちを読み取る。 深めの発問 ◎「ごん」は、「つまらないな。」「おれは引き合わないな。」と思っているのに、そのあくる日もくりを持って行く「ごん」は、どんな気持ちなのだろう。 4 「4」「5」「6」の場面を読んで考えたことを書き、ペアで交流する。	・「不思議なこと…毎日毎日くれる…。」「(B) ・兵十のかけぼうしをふみふみ (C) ・「神様にお礼。」「うん。」「(C) ・「つまらないな。」「もっていつてやるのに…引き合わないなあ。」「(A) ・そのあくる日も…こっそり (C)
8 本時	「ぬすみやがったあのごんぎつねめ」「固めて置いて」「ごん、おまいだったのか、いつも…くれたのは。」「ばたりと取り落とし」といった行動や会話の言葉に着目し、登場人物の行動や心情の変化を考えることを通して、「兵十」が「ごん」の償いの気持ちの深さに気付かず撃ってしまったことへの後悔の思いを読み取ることができる。	1 第6場面での「兵十」が「ごん」を見つけたときの行動や気持ちを交流する。 2 課題を確かめる 「兵十」は、「ごん」をたおしたのに、なぜ、火なわじゅうをばたりと取り落としてしまったのかを読み取ろう。 3 第6場面での「兵十」の気持ちについて、自分の考えをもつ。 4 第6場面での「兵十」の気持ちについて、考えを交流する。 5 深めの発問 ◎「ばたりと取り落とす」程、体の力が抜けたのは、なぜだろう。 6 第6場面を読んで考えたことを書いて、ペアで交流する。	・ぬすみやがったあのごんぎつねめが、また… (A) ・しのばせて…ドンど…うちの中を見ると (C) ・くりが固めて置いてあるのが (D) ・「ごん、おまいだったのか。いつも、くりをくれたのは。」(B) ・ぐったりと目をつぶったまま、うなずき (C) ・ばたりと取り落とし (C) ・青いけむりが、まだつつ口から細く出て (D)

9 10	「ごんぎつね」を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。 自分の考えの根拠となる部分を詳細に読んだり、必要に応じて引用したりすることができる。	1 本時の学習課題を確認する。 「ごんぎつね」を読んで感じたことや考えたことを話し合おう。 2 感想を百字程度にまとめ、初めに書いた自分の感想と比べて、考えが深まったり広がったりしたことを振り返る。 3 グループで感想を出し合い、何について話し合うかを決める。 4 テーマごとに自分の考えをまとめる。 5 互いの考えの共通点や相違点に気をつけながら、グループで話し合う。 深めの発問 ◎話し合いによって、どのように考えが深まったか。 6 話し合って、考えが深まったり広がったりしたと感じたことを書く。	
三 11 12 13	続き話を書き、文章を読み合って、書き方のよかったところを述べ合うことができる。	1 本時の学習課題を確認する。 読んで感じたことをもとに、続き話を書き、友達と発表し合おう。 2 続き話を書く。 3 友達が書いたものを読み合い、よかったところを伝え合う。 4 話し合って、考えが深まったり広がったりしたと感じたことを書く。	
四 14	文章を読んで考えたことを話し合い、一人一人の感じ方の違いのあることに気付くことができる。	1 本時の学習課題を確認する。 新美南吉の他の作品を読んで感想を書き、交流しよう。 2 新美南吉の他の作品を読み、感想を百字程度にまとめる。 3 書いたものを交流する。 4 本時の学習の感想と単元の学習全体から、できるようになったことや新しく知ったことを書く。	

(3) 単元を貫く言語活動

単元の課題「登場人物の行動や気持ちの変化をとらえ、感じたことや考えたことを話し合おう。」

- 〈目的意識〉 物語の感じ方は一人一人違いがあることに気付く、物語の読みを深めたり広げたりするために、
- 〈相手意識〉 学級の仲間と、
- 〈場面・状況意識〉 「ごんぎつね」や新美南吉のその他の作品を読んで登場人物の気持ちや、自分の感じ方や考え方を、
- 〈方法意識〉 話し合うことを通して、
- 〈評価意識〉 以前の感じ方や考え方と比べ、叙述を根拠に、深め広げることができたか。

5 本時のねらい

「ぬすみやがったあのごんぎつねめ」「固めて置いて」「ごん、おまいだったのか、いつも…くれたのは。」「ばたりと取り落とし」といった行動や会話の言葉に着目し、登場人物の行動や心情の変化を考えることを通して、「兵十」が「ごん」の償いの気持ちの深さに気付かず撃ってしまったことへの後悔の思いを読み取ることができる。

6 本時の展開

	学習活動と児童の姿	願う児童の姿を具現するための指導・援助 根拠をもとに自分の考えをもつための指導の工夫：ア 考えを深め、広めるための交流活動の工夫：イ
つかむ	1 第6場面での「兵十」が「ごん」を見つけたときの行動や気持ちを交流する。 ・ぬすみやがったあのごんぎつねめがまた…どうせ、あいつがまた悪さをしに来たんだ。おっかあにうなぎを食べさせたら治ったろうに。憎くい、殺してしまえ。 ・「ようし。」…足音をしのばせて…絶対に一発でしとめてやる。	ア 児童が課題を追究する前提として、全員が、ごんが兵十にしてきたことと、それについて兵十が考えていたこと（ごんに対する思いと、神様と考え、ごんとは考えていない）に気付いている状態にしておく。そのために既習学習の掲示を示して、振り返るよう促す。
考える	2 課題を確かめる 課題 「兵十」は、「ごん」をたおしたのに、なぜ、火なわじゅうをばたりと取り落としてしまったのかを読み取ろう。 3 第6場面での「兵十」の気持ちについて、自分の考えをもつ。 ・「ごん、おまいだったのか。いつも…くれたのは。」…うなぎ ああっ、しまった。ごんだと知らなかった。びっくりした。 何回も栗や松茸もくれたのに殺してしまった。ごめんなさい。 1回ではなく、毎日、毎日持ってきてくれていた。 ・くりが固めて置いて 固めて置いてあって、人か神様だと思っていた。それが、まさかあの、あの悪いことばかりする、憎かったきつねだったとは。 ・ばたりと取り落とし とても驚いたから、思わず火縄銃を落とした。	ア 「兵十」の「ごん」に対する気持ちの変化が分かる言葉を問い、「固めて置いて」「いつも…くれたのは。」「ごん、おまい」と「ばたりと取り落とす」をあげる。 ア 特に共通して考える叙述として「固めて」と「いつも」をあげ、兵十の気付きの深さを考えるようにする。 イ 深めの発問する前に「ばたりと取り落とす」とは、体の力が抜ける様子であることをとらえておく。
深める	4 第6場面での「兵十」の気持ちについて、考えを交流する。 5 深めの発問 ◎ 「ばたりと取り落とす」程、体の力が抜けたのはなぜだろう。	イ まとめは、初めの感想と比べて考えが深まったり広がったりしたことを、初めの感想と、本時の叙述を位置づけて書くようにする。
まとめる	6 第6場面を読んで、最初の感想と比べ、考えが深まったり広がったりしたと感じたことを書いて、ペアで交流する。 ねらいを達成した具体的な児童の姿（兵十についての読みの深まり） 初め ・「ごん」が栗を持ってきてくれて、よいことをしていたのに、傷つけ、殺してかわいそうなことをした。ごめんなさい。 ・「ごん」を撃ったのは悪かった。でも知らなかったし、いたずらばかりしていたから、しかたがない。 本時 ・毎日毎日、栗や松茸を持ってきてくれたのは、「ごん」だった。 ・「ごん」は一人になった自分のことを思い、おわびの気持ちでいっぱいだったのに。 ・「ごん」のことを悪いやつ、憎いと思いつんで殺してしまった。 ・「ごん」は、「ぬすつとぎつねめ」と思っていた自分のことが怖くて、今まで言えなかったのだろう。	イ ペア交流では、相手を書いたものを音読し、自分の考えと比べて感想を話すようにする。 ☆「兵十」の心情を読み取ることを通して、相手の思いを理解しようとせず排除することの辛さを考えることができる。 「自己啓発力」
	7 本時の目標が達成できた姿を価値付ける。	評価規準 【読む能力】 「兵十」が「ごん」の償いの気持ちの深さに気付かず撃ってしまったことへの後悔の思いを読み取っている。（ノート・発言）